



平戸航太公式LINE

参議院議員 参議院比例区第1総支部長

平戸航太

■プロフィール ●1987年7月生まれ(38歳) ●長崎県伊王島出身 ●2児の父
●九州大学大学院修了 ●(株)日立製作所で設計者として勤務 ●こくみん政治塾第1期生 ●参議院議員(全国比例区・1期) ■所属委員会 ●予算委員会 ●国土交通委員会 ●デジタル社会の形成及び人工知能の活用等に関する特別委員会 ■党役職 ●エネルギー調査会事務局長 ●選挙対策委員会事務局長 ●経済調査会副会長 ●国会対策委員会副委員長

宇宙開発・先端技術開発に係る課題認識を提起

4月22日、第221回特別国会におけるデジタル・AI特別委員会で「改正宇宙活動法(人工衛星等の打上げ及び人工衛星の管理に関する法)」に係る審議が行われました。宇宙開発は先端技術や安全保障と直結する国家の基幹分野であり、個別事業にとどまらない重要性を持ちます。しかし、市場環境の整備や社会実装の加速、政府専門機関による技術的な助言、技術開発のスピードに対応した具体的な法整備など、進展に向けた課題が多くあります。また、宇宙開発に従事する方からは、政府機関の縦割りや横連携不足に起因する課題、先行案件の完了を待たずに後続プロジェクトが開始することによる現場負荷など、切実な声が寄せられています。一方で国外に目を向ければ、諸外国による主導権争いが激化し、宇宙開発に対する日本の存在感が問われています。こうした現場実態等に基づき、小野田内閣府特命担当大臣をはじめ政府に対して意見を提起しました。

● 今後の宇宙開発の展望と大臣の決意について

平戸航太の発言要約



アルテミス計画など宇宙開発の主導権争いが激化する中、我が国が埋没せずに主導権を発揮し、持続可能な宇宙産業を構築していくために、国として強い決意をもって宇宙政策を推進すべき。大臣の決意を伺う。

小野田内閣府特命担当大臣の答弁要約



我が国の技術力と産業基盤の強化が重要。宇宙戦略基金による投資促進や制度整備など多角的な支援を行い、日本の強みを活かして国際的な存在感を更に発揮できるように全力で取り組んでいく。

質疑の様子は、こちらのQRコードからご視聴いただけます。
(参議院インターネット審議中継)



● 打上げ目標と現状の乖離、および持続可能な宇宙産業の育成について

平戸航太の発言要約



基幹ロケットの早期再開・能力強化を両立させ、民間資金の呼び込みやユニコーン企業創出に向けた環境整備を急ぐべきではないか。

政府参考人(内閣府)の答弁要約



現状の課題は技術的難易度の高さや設備不足と認識。資金調達対策としては、宇宙戦略基金を通じた支援やアンカーテナンシーの強化により社会実装を加速するための支援に取り組んでいく。

● 新たな宇宙輸送形態への法整備について

平戸航太の発言要約

サブオービタル飛行等の法整備見送りにより、民間企業が未来の商機を逃す懸念がある。有人宇宙飛行やサブオービタル飛行に向けた具体的なスケジュールを示し、早急に法的環境を整備すべきではないか。

政府参考人(内閣府)の答弁要約

有人輸送は特別に訓練された関係者の搭乗を想定し、審査基準等を検討する。サブオービタル飛行は規制による技術開発の妨げ等を考慮し、改正法施行後3年を目途に検討・見直しを行う。

● 国際競争力強化に向けた政府の支援体制と国際協力について

平戸航太の発言要約



拡充される内閣府の宇宙組織を審査にとどめず、技術開発や競争力強化へつながる伴走支援に広げるべきではないか。また、需要の海外流出防止や有志国との協力を進め、法整備を継続的に更新すべき。

政府参考人(外務省)の答弁要約



JAXA等による民間支援は進行中。需要流出には宇宙戦略基金や射場整備などで打上げ能力を強化し、有志国との戦略的連携に取り組んでいく。

● 開発現場のリソース逼迫とプロジェクトの優先順位付けについて

平戸航太の発言要約

国が司令塔となって宇宙開発全体を俯瞰し、どのプロジェクトを優先すべきか明確な優先順位を決定すべき。

政府参考人(内閣府)の答弁要約

宇宙政策の推進には協力企業の存在は不可欠。司令塔として現場職員、従業員の方々の声をしっかりと聞きながら、継続的な開発が進むよう努める。

#メイドインジャパンを増やす

一緒に「新しい答え」をつくりませんか!?
党員・サポーター募集中

登録はこちら

